

5 匿名と実名

2016年7月26日、神奈川県相模原市の障害者施設で19人の生命が奪われる事件が起きた。遺族の希望で警察が被害者の実名を公表しなかったため、この事件では被害者は匿名となっている。

実名か匿名かは、事件に対する印象や、その後の記憶に大きな違いが出るのではないか。

2001年に大阪教育大学付属池田小学校で起きた児童殺傷事件では、被害者の氏名が刻まれた碑が建てられた。沖縄県糸満市の「平和の礎」に刻まれた一人一人の名前は、その人が生きた証といわれる。

1995年の地下鉄サリン事件、2005年のJR福知山線脱線事故は、実名が報じられ、思い浮かべ

る御遺族の顔があり、事件に対する怒りや悲しみを身近なものとしている。

2015年、Eテレ・ハートネットテレビ「戦後70年と障害者」の番組で、ナチス・ドイツ時代に病院や施設にいた精神障害者や知的障害者が、生きる価値のない者とされ、ガス室に送られ、殺されていた史実を紹介していた。殺された障害者の数は20万人以上。後のユダヤ人大虐殺につながり、そのリハーサルだったとも言われる。実行本部のあった場所に因み「T4作戦」と呼ばれた。

番組では、「T4作戦」で障害者だった父マーティン・バーデルさんを殺されたヘルムートさんが、父親

の写真、商売道具、手紙を通して、在りし日の様子を語っていた。殺された夫の死亡通知を受け取った時の、ヘルムートさんの母親の姿は印象的だった。

私が殺された場合、氏名は実名で公表されるのか。それとも匿名なのか。相模原で殺された方と私との境界は一体どこにあるというのか。

2016年7月の相模原市障害者殺傷事件を無かったことにしないで欲しい。